

**製品名: Frizzled-6 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab11147**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	79kDa

**抗原情報**

遺伝子名	FZD6
別名	FZD6; Frizzled-6; Fz-6; hFz6
遺伝子 ID	8323.0
SwissProt ID	O60353
免疫原	抗血清はヒト FZD6 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 116-165

**背景**

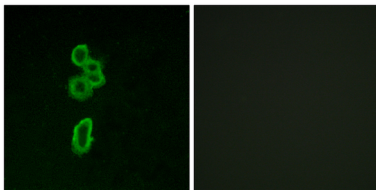
frizzled クラス受容体 6(FZD6) Homo sapiens この遺伝子は、「frizzled」遺伝子ファミリーのメンバーであり、Wnt シグナル伝達タンパク質の受容体である 7つの膜貫通ドメインタンパク質をコードする。このファミリーメンバーによってコードされるタンパク質

は、シグナルペプチド、N末端細胞外領域のシステインリッチドメイン、および7つの膜貫通ドメインを含むが、他のファミリーメンバーとは異なり、C末端PDZドメイン結合モチーフを含まない。このタンパク質は、標準的なWnt/ $\beta$ -カテニンシグナル伝達カスケードの負の調節因子として機能し、それによって腫瘍形成、細胞増殖、およびアポトーシスを引き起こすプロセスを阻害する。選択的スプライシングによって複数の転写産物バリエーションが生じ、その中には予測されるシグナルペプチドを持つタンパク質をコードしないものもある。[RefSeq提供、2011年8月],domain:Lys-Thr-X-X-X-Trpモチーフは、Wnt/ $\beta$ -カテニンシグナル伝達経路の活性化に関与している。、domain:FZドメインはWntリガンドとの結合に関与している。、function:Wntタンパク質の受容体。frizzled受容体のほとんどは、 $\beta$ -カテニンの標準的なシグナル伝達経路に結合しており、disheveledタンパク質の活性化、GSK-3キナーゼの阻害、 $\beta$ -カテニンの核内蓄積、およびWnt標的遺伝子の活性化につながる。PKCとカルシウムフラックスが関与する2つ目のシグナル伝達経路が、一部のファミリーメンバーで確認されているが、PKCはWntを介したGSK-3キナーゼの不活性化に必要であると考えられるため、それが独自の経路を表すのか、それとも標準的な経路に統合できるのかはまだ明らかではない。どちらの経路もGタンパク質との相互作用に関与していると考えられる。組織形態形成過程および/または分化組織において、極性情報の伝達および細胞間伝達に関与している可能性がある。、類似性: Gタンパク質共役受容体Fz/Smoファミリーに属する。、類似性: 1つのFZ (frizzled)ドメインを含む。、組織特異性: 成人では心臓、脳、胎盤、肺、肝臓、骨格筋、腎臓、膵臓、胸腺、前立腺、精巣、卵巣、小腸、結腸で検出される。胎児では、脳、肺、肝臓、腎臓で発現する。、

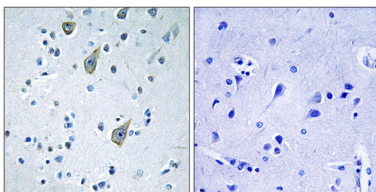
## 研究分野

WNT、WNT-T細胞、メラニン生成、がんの経路、大腸がん、基底細胞がん

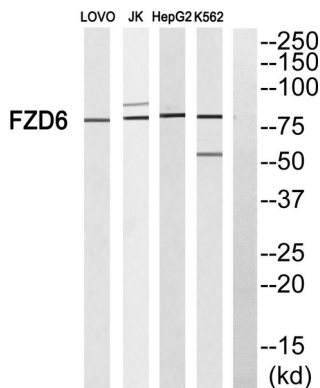
## 画像データ



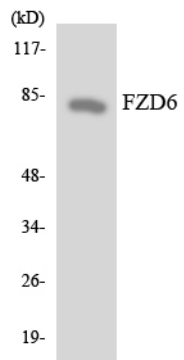
FZD6抗体を用いたMCF7細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像です。



FZD6抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像です。



FZD6抗体のウェスタンブロット解析。右レーンはFZD6ペプチドでブロッキングされている。



FZD6 抗体を使用した 293 細胞からの溶解物のウェスタン ブロット分析。